

国際理解を目指した学習における、教師の経験を活かした授業の効果に関する一考察

磯本崇仁(東京学芸大学大学院教育学研究科)

1. 研究の背景・目的

担当した社会科の授業では、調査協力校の児童の実態を考慮し、多角的な視点からの理解を促すために Banks(1989)の変換アプローチを活用した指導を実践しようとした。しかし Banks(1989)の示す国家間モデルを小学生が理解するのは困難であることが予想された。そこで教師が経験したことであれば児童にもわかりやすく実感を伴って理解できる、という先生方の助言から、教師の経験を活かした授業を試みた。

また、教師の経験がいかに関業に反映され、児童からどのような反応が得られたかという分析が提示された研究はあまり見られない。

以上の背景から本研究では、教師の経験を活かした授業を設計し、その効果を明らかにしたうえで、学習内容への理解を深める指導の工夫の提案をすることを目的とする。具体的には大津(1987)「一本のバナナから」を参考にした国際理解を目指した小学校の第4学年社会科の授業実践の中で、経験を活用した学習内容の提示を行っていく。

2. 研究の概要

社会科の単元「住みよいくらしをつくる」の「水はどこから」の発展的な学習として、筆者が3時間分授業を担当したものである。筆者がフィリピンの大学で触れた文化や言葉、地域の人々との交流、ミンダナオ島でのバナナプランテーションの様子などを教師の経験として活用した。教師の経験に基づいた授業を設計するという目的に鑑み、変換アプローチ(Banks, 1989)と大津実践の「一本のバナナから」、という2つの観点を考慮して行った。

本研究では構築主義の認識論に立つ。そのため解釈的アプローチを用いて、小学校の学校現場で授業実践を行うアクションリサーチを採用した。データとして、授業を通じた児童の反応に関して、①実践のビデオ録画、②実践の録音音声のSCRIPT、③児童が書いた授業のまとめの記述、④学習のまとめにおける児童の絵の4つを収集した。

3. データ分析

Banks(1989)では授業のカリキュラムにおける到達点が示されている。本研究ではこの理論を援用して児童の学習の進捗に基づき児童の記述を分類することとした。元々の理論とはアプローチが異なるため、それぞれの到達点で示される態度を踏まえて名前を付け、分類した(表1)。分類したデータにおける児童の記述に対して理解を深めるために、ビデオ録画で見られる授業中の動きや話し合いの様子、SCRIPTから読み取れる関心事・思考過程、児童の絵から記述できなかった想いを読み取り、統合し分析した。

表1 それぞれのアプローチに対する記述の分類について

	記述の内容
社会行動的態度	学んだ事象に対して自分から今後行うべき方策を述べていることや、現状を認識したうえで感謝の気持ちを抱くなどの感情を表現している記述。
他者視点的態度	一人称の見方だけではなく周りの協力があって私たちが支えられていることに関して理解できていると判断できる記述。
一人称視点的態度	客観的にコメントはできているが、かわいそう、びっくりしました、大変そう、などと他人事として学んだことを振り返っている記述。
無関心的態度	授業で学ばなくても考えることのできる視座、授業と関係のない記述。

分析の結果、教師の経験に基づく語りによって実感を伴い理解したことで、児童が他者の立場から問題を考える様子や、自分事として問題を捉え具体的な解決法を見出す様子が観察された。教師の経験に基づく語り学習者のエンゲージメントを高めることに繋がっている可能性が推察され、この効果が一助となって、児童の高次の態度への変化を下支えしていたことが窺われた。以上から、児童が「社会行動的態度」、「他者視点的態度」に至り、学習への理解を深めていくことに、教師の経験に基づく語り学習が寄与する可能性を示すことができた。一方で、児童が実感を伴って深い理解を示すことの裏返しとして、否定的な印象も残ってしまうため、児童同士で感想を伝え合う機会を作ることや、教師が授業外でも児童の想いに耳を傾けるケアも必要であるという分析が得られた。

4. まとめ

今回の知見は経験に関する先行研究に対して、授業における教師の経験の活用の在り方を提示できたことにある。また学術・教育分野への貢献として、小学校中学年の児童にとっても、ある事物に対して多様な視点から理解するような学習が可能であると方向性を示したことが挙げられる。これにより広範な学習目標を設定した授業実践ができる可能性がある。

5. 主要参考文献

大津和子(1987)『社会科=1本のバナナから』国土社。

Banks, J. A. (1989). Approaches to multicultural curriculum reform. Trotter Review, 3(3), pp.17-19.